

平成15年11月20日

平成16年3月期連結中間決算の概要について

シロキ工業株式会社

(輸送用機器 東証、名証第1部上場)

平成16年3月期連結中間決算につきまして概要をご説明させていただきます。

(個別につきましては10月29日に発表しています。)

1、連結中間決算概要について

当社の連結対象子会社は国内6社、海外6社の計12社で、他に持分法適用関連会社が3社あります。前年同期比で海外の連結対象会社が1社増となりました。これは本年5月、現地生産子会社「昆山白木汽車零部件有限公司」を中国(江蘇省昆山市)に設立したからです。

[シロキ工業の売上増で連結売上高は過去最高]

上半期の連結売上高は前年同期比2.8%増の556億4千6百万円で、14億9千3百万円の増収となり、過去最高の売上を上げることができました。また5月27日に発表した期初予想539億円に対しても3.2%増の17億4千6百万円の増収となりました。

(注：以下期初予想は5月27日発表の数値です。)

なお11月13日に業績予想の修正を発表し、売上高は556億円に修正しています。)

増収の主な要因は、シロキ工業の売上増によるもので、前年同期比2.8%増の435億9千9百万円の売上高で、11億9千1百万円増収となりました。シロキ工業は得意先の受注車種の好調な販売による生産増と拡販活動による受注増、および全額出資の子会社である九州シロキ(株)の本格生産開始で九州地区での受注・生産体制が整ったことなどにより売上増となったものです。

主力の北米生産子会社のSWマニュファクチャリング(米国テネシー州)が、ドルベースにおいてはトヨタ自動車(株)の北米現地法人向けが堅調に推移したため、前年同期比4.3%増の374万ドルの増収となりましたが、円高による為替換算の影響により円ベースでは3.4%減の3億8千1百万円の減収となり、このため連結での増収の巾が小さくなりました。

連結中間期実績

(上段当中間期・下段前年同期)

売上高：

556億4千6百万円
541億5千2百万円
(前年同期比2.8%増)

営業利益：

19億3千2百万円
23億5千6百万円
(前年同期比18.0%減)

経常利益：

18億5千3百万円
22億3千1百万円
(前年同期比16.9%減)

中間(当期)純利益：

8億8千4百万円
10億1千6百万円
(前年同期比13.0%減)

1株当たり予想当期純利益

9円95銭
11円43銭

主要会社の売上と利益

(上段当中間期・下段前年同期)

1、シロキ工業

売上高

435億9千9百万円
424億8百万円
(前年同期比2.8%増)

営業利益

13億3千4百万円
16億2百万円
(前年同期比16.8%減)

経常利益

13億9千万円
15億2千5百万円
(前年同期比8.8%減)

中間純利益

4億5千1百万円
5億1千8百万円
(前年同期比13.0%減)

**[退職給付費用・社会保険料の増加と円高で減益、
期初予想に対しては売上増と合理化で増益]**

利益につきましては、営業利益は前年同期比18.0%減の19億3千2百万円で、4億2千5百万円の減益となりましたが、期初予想14億円に対しては38%増の5億3千2百万円の増益となりました。

経常利益は前年同期比16.9%減の18億5千3百万円で3億7千8百万円の減益となりましたが、期初予想12億円に対しては54.4%増の6億5千3百万円の増益となりました。

(注: 11月13日発表の業績予想の修正では経常利益は18億円に修正しています。)

増減益の主な要因は、前年同期比ではシロキ工業における退職給付費用の増加2億1千4百万円や総報酬制導入による社会保険料の増加1億6千万円などでの減益と、SWマニュファクチャリングにおける鋼材の値上がりによる原価率の増加や円高による為替換算の影響などでの減益が、それぞれ影響し減益となりました。期初予想に対してはシロキ工業の売上増加に伴う増益効果と原価改善活動などでの合理化効果などによる増益が影響し増益となりました。

**[最終損益は8億8千4百万円で前期比減益、
期初予想では増益]**

最終損益につきましては、中間純利益は前年同期比13.0%減の8億8千4百万円で1億3千2百万円減益となりました。期初予想7億円に対しては26.3%増の1億8千4百万円の増益となりました。

(注: 11月13日発表の業績予想の修正では8億5千万円に修正しています。)

2、上期の取り組みについて

当社では厳しい経営環境のなか、全社を挙げて収支改善活動と業務改革に取り組むとともに、中期経営計画(01~05年度)を基に構造改革を着実に進め、企業体質の強化をはかりました。上期に実施した主な取り組みは次の通りです。

2、SWマニュファクチャリング

売上高

108億5百万円
111億8千6百万円
(前年同期比2.8%減)

営業利益

3億8千1百万円
5億6千6百万円
(前年同期比18.0%減)

経常利益

5億6百万円
6億7千5百万円
(前年同期比16.9%減)

中間純利益

5億4百万円
6億7千6百万円
(前年同期比13.0%減)

海外売上高

(上段当中間期・下段前年同期)
112億6百万円
113億5千6百万円

海外売上高比率

(上段当中間期・下段前年同期)
20.1%
21.0%

設備投資額

(百万円)(前年同期)
上期実績
2,960(3,480)
通期予想
5,144(5,508)

減価償却費

(百万円)(前年同期)
上期実績
2,568(2,589)
通期予想
5,381(5,697)

1、グローバル展開の加速

アジアでの生産・供給体制を強化するとともに、世界4極市場対応を加速しました。

韓国・亜山（株）に技術供与

- ・ ドアサッシの生産で技術供与契約締結。（本年4月）

中国・江蘇省昆山市に工場進出

- ・ 現地生産会社「昆山白木汽車零部件有限公司」を設立。（本年5月）

韓国・亜山（株）に資本出資

- ・ 出資額2千万円で出資比率は11%。（本年8月）
- ・ シロキタイランド（タイ）の新工場完成
- ・ 新工場完成・稼動開始。（本年8月）
- ・ ウインドレギュレータを一貫生産。

2、利益体質の定着化

固定費削減

設備投資の抑制

借入金の削減

3、生產品目・生産拠点の見直し

生產品目を主力5製品に特化

- ・ 経営資源の集中化により、高品質・高機能・低コストの世界NO.1製品づくりを進め、競争力を高めるとともに、5大製品の世界4極市場への対応を加速。
- 子会社・関連会社の事業見直し

3、通期業績予想について

[米経済減速懸念や円高により減収減益を予想]

通期業績予想につきましては、米国経済の減速や円高進行の影響が懸念されるため、売上高は前期比3.4%減の1100億円で39億2千4百万円の減収、営業利益は33.7%減の40億円で20億3千3百万円の減益、経常利益は36.1%減の35億円で19億7千5百万円の減益を予想しています。また当期純利益も31.6%減の16億円で7億3千8百万円の減益を予想しています。

減収の主な要因はシロキ工業の売上減少と円高による為替換算の影響によるSWマニュファクチャリングの売上減少によるものです。

連結通期予想

（上段予想、下段前期実績）

売上高：

1100億円
1139億2千4百万円
（前期比3.4%減）

営業利益：

40億円
60億3千3百万円
（前年同期比33.7%減）

経常利益：

35億円
54億7千5百万円
（前期比36.1%減）

当期純利益：

16億円
23億3千8百万円
（前期比31.6%減）

1株当り予想当期純利益

（上段予想、下段前期実績）

17円26銭
25円56銭

シロキ工業通期予想

（上段予想、下段前期実績）

売上高：

874億円
900億8千7百万円
（前期比3.0%減）

営業利益：

28億円
45億1千6百万円
（前期比38.0%減）

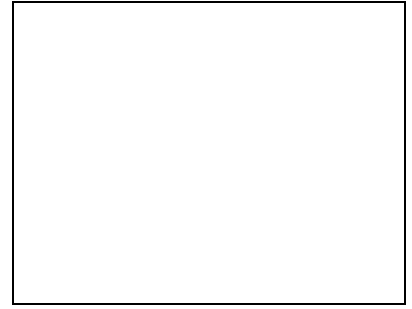
経常利益：

29億円
44億9千8百万円
（前期比35.5%減）

当期純利益：

10億円
15億5千3百万円
（前期比35.6%減）

減益の主な要因はシロキ工業における売上減少、退職給付費用増加（４億６千６百万円）、社会保険料の増加（１億９千７百万円）などによる利益減少の影響とＳＷマニュファクチャリングの円高による為替差損での利益減少の影響によるものです。



シロキ工業株式会社 （０５３３）８４ - ４６９１

この件のお問い合わせは :

経理部長

大石勝美

ニュー・スリリースのお問い合わせは :

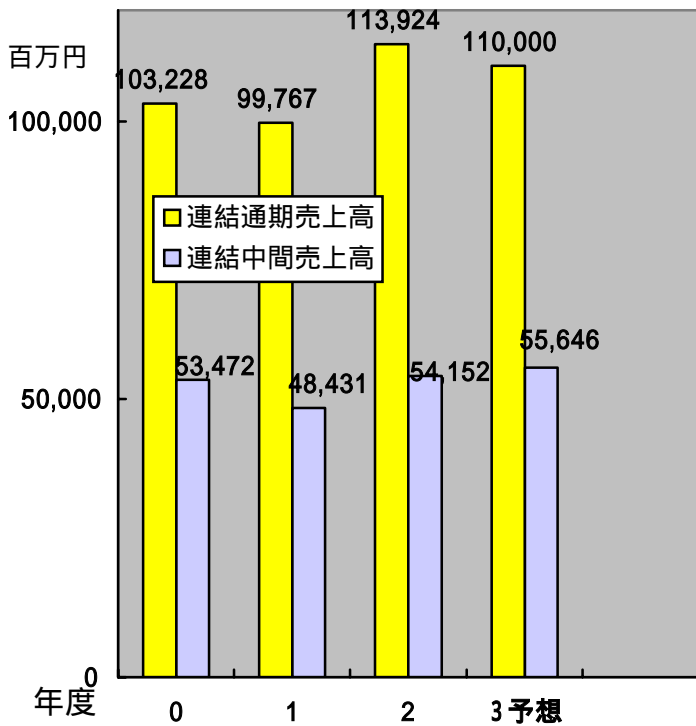
総務部広報担当

眞野成人

業績推移

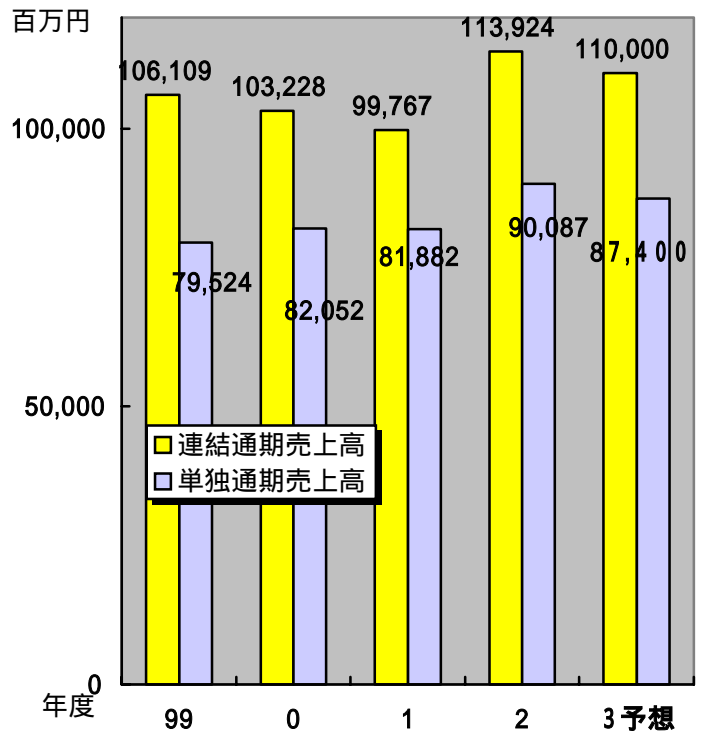
シロキ工業株式会社

連結売上高推移（通期と中間期）

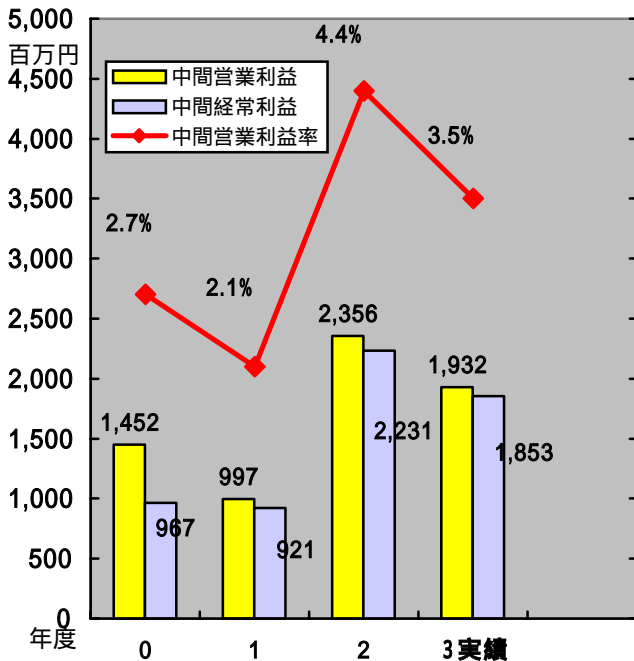


(注：3年度通期は予想、中間期は実績)

連・単売上高推移（通期）



連結利益の推移（中間期実績）



連結利益の推移（通期）

